
dreamers

osa

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

dreamers

【Nコード】

N6690C

【作者名】

osa

【あらすじ】

最愛の母を失った少年は、まだ見ぬ父に会うため、一人異国の地へと旅立つ。そこで少年を待っていたのは、安らぎか、絶望か・・・？自分の運命は自分の力で変えてやる！！一人の少年の成長物語。

第1話：少年の旅立ち。

お母さん……。なんで？なんで僕を置いて行っちゃったの？

日本から飛行機で約13時間。地中海に面する、長靴型の国、タリアン。四方には雄大な小麦畑が広がる。まるで自分が大自然と一体化してしまったかのような感覚。温和な気候の下、街も人もすべてが和やかで、心なしか時間もゆっくり流れているように感じる。

東京とは大違いだなあ・・・

そんな風景を目の当たりにして、横田オサムは思わず感嘆のため息を漏らしていた。

迷ったけど、やっぱり来てよかった・・・

精悍でしつかりとした顔立ちをしているが、その姿はまだ幼く、年齢10ほどであろうか。

金色のさらさらなおかつぱの髪に、パツチリとした黒い縦長の眼。明らかに日本人離れた容姿をしている。

白いシャツの上には、しつかりとしたおぼっちゃま風のグレーのスイツを着て、首元には赤い小さな蝶ネクタイをしている。

さてと。早くお父さんを探さないと・・・

オサム、オサム……。実はね、お母さん、もうオサムとずっと一緒にいることはできないの。ごめんね……。本当にごめんなさい。

あなたには横田グループの跡取りとして、まだ小さいのに辛いこともたくさん経験させてき

て……。お母さん、最後までオサムのことちゃんと支えてあげられなかったね。

最後に……。今まであなたにお父さんの話をしたことがなかったわね。

あなたのお父さんはね、遠い遠い別の国にいるの。

そこでね、国のためにとても大切なお仕事をしているのよ。

お母さんがいなくなった後、一度お父さんに会いに行つてごらんなさい。

きつとあなたのことを受け入れてくれると思うわ……

1ヶ月前、お母さんは病気でこの世を去った。

元々体が弱かったお母さん。僕を産んだ頃から持病が悪化しだして、とうとう僕を置いて遠くにいつてしまった。

僕のただ一人の味方だったお母さん……。

おじいちゃんから辛い跡継ぎ教育を受け続ける日々の中で、お母さんだけが僕を励ましてくれたんだ。

そのお母さんが死んじゃって……。もうこんなところにいたくないよ……！！

そうしてオサムは祖父の目を盗み、父が住むというタリアンにやってきたというわけなのだ。

もう僕にはお父さんしかいないよ……。

お父さんなら、僕を受け入れてくれるはず……

もう日本には戻らない！ここでお父さんと一緒に暮らすんだっ！！！！

しかし、すっかりしているとはいえまだ10歳。見知らぬ土地で、心細くないわけが無かった。

父の住むという南タリアンのルツチエに来たはいいものの、分かっているのはそこまで。父の具体的な住所や働き場所などは何も分からないのだった。

はぁ……。

これからどうしたらいいんだろう……。

と、そのとき。

「へえーい、お嬢ちゃん！ひとりい？」

不意に背後から男の声がした。

オサムが慌てて振り向くと、そこには190cmはあるつかという大きな男が立っていた。

しっかりとした筋肉質な体つきをしているが、横幅はそれほど大きくはない。

深い茶色の立てぎみの髪に、ちゃんと出た八重歯が似合う、いたずら好きそうな顔の青年だ。

「嬢ちゃん、そんなおっきな荷物抱えてどこにいくんだい？」

俺がもってやるからさあ、ちよっとお話しない？ほらほら」

「あ、いや、そのっ……」

今までも渋谷とかで何度か声をかけられたことはあったけど、こんなに馴れ馴れしいのは初めてだ……。外国の人ってみんなこうなのかな……。？てゆうか僕は男だあっ！

「行くところがあるんです……。こっ、困りますうつ……。！」

「いい〜じゃあ〜ん！俺がもつと楽しいところに連れてってやるよ」

「

しゅばああああんっ！！！！！！！

突然。ものすごいスピードで空気を切り裂くような轟音が響き渡った。

目の前の男の茶色の髪が何本か、はらはらと宙を舞う。

「えっ・・・」

「何してるんだ、ソルト。」

男の後ろに、もう一人男がいた。その手には何本かダーツが握られている。

「まったくお前は・・・。どれだけさぼったら気がすむんだ、ソルト。」

「な〜んだい、フォールか。いつ見てもお前のダーツの腕はすげえなあ〜！」

「ソルト・・・」

「お、おっとっ！わかったよう。すぐに仕込みにいくつてよう。」

「フォール・・・？」

オサムは身震いがした。

お母さんが言ってた、お父さんの名前と一緒に・・・

フォールと呼ばれたダーツの男。

背丈はそんなに高くないが、金色の少しはねた髪。縦長の垂れた眼。

僕に・・・似てる・・・？
もしかしてこの人が・・・、僕の、お父さん・・・？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6690c/>

dreamers

2011年1月16日09時18分発行